



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
 佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 118) uniwish45号
 佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号 (2024年8月)
 (電話・FAX) 0952-28-2077
 (業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
 ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
 Facebook <http://www.facebook.com/unicef.saga>



「子どもの権利」が守られる世界を！

ユニセフは、世界中の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。子ども達は、この地球に生まれて、それぞれの環境で生きています。多様な世界にあって、子どもたちが生まれながらにもつ「おなじ」と、きびしい現実が伝える「ちがいを」知り、また、子ども一人一人が持つ「子どもの権利」が守られているのかを知るにより、これからどんな世界をつかっていったらよいのか、ユニセフといっしょに考えてみませんか？
 <ユニセフハウス展示内容参照>

あなたは知っていますか？
 世界の子ども達の現実を。
 <数でみる子どもたちの現実> (2022年度末)
 世界の子どもの人口 **23億5367万人**

学校に通えていない子ども
3億人
 以上

紛争下でくらす子ども
2億5000万人

エイズで親を失った子ども
1540万人

心の病を抱える子ども
 (10歳~17歳)
7人に1人

学校に通えず仕事についていない若者
女性4人に1人
男性10人に1人

気候変動のリスクが非常に高い国に住む子ども
10億人

7人の子どもたち と出会う <実際の子どもたちの現実>

世界には、きびしい状況に取り残されている子どもたちがいます。どんな問題が子ども達を脅かし、子どもの権威が奪われているのでしょうか。そのなかで子どもたちは、どんなことを感じ、考えているのでしょうか。シリア、バングラデシュ、南スーダン、イエメン……。紛争、児童労働、子ども兵士、児童婚……。それぞれの場所で、それぞれの問題に直面している7人の子ども達を紹介します。 <ユニセフハウスZoon2展示参照>

紛争下、教育を受けられない子どもたち



サジャ 12歳
 シリア 

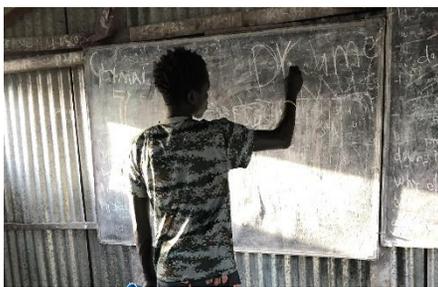
中東の国シリアでは、2011年に紛争が始まりました。サジャさんは、アレppoという街で暮らしています。家族や友だちを爆撃で失い、サジャさん自身も片足を失いました。サジャさんは「もとは体操の選手だったので、将来は体操のコーチになりたい。望みは夢をかなえることです。どんなに大変でも学校に通い続けたい。」といいます。このような争いの中、学校に通えていたとしても、教科書やノートがなかったり、教えてくれる先生がいなかったり、学校の設備がととのってなかったりして、十分にまなぶことができない子どもたちも、大勢います。



貧困の中、家族のためにはたらく子どもたち

スモン 11歳
 バングラデシュ 

世界中で、たくさんの子どもたちが働いています。私たちの身の周りがある、洋服や食品、電化製品も、もしかすると、子どもたちが働いた結果、できたものかもしれません。この男の子は、スモンさん。南アジアのバングラデシュという国に住んでいます。アルミ食器の工場では、朝7時から毎日10時間、1時間20円で働いています。お父さんがけがをして働けないので、お兄さんと二人で働いています。おとな顔負けのスピードで、手際よく働きますが、裸足で、金属の粉やほこりを防ぐマスクもありません。目が焼けるように痛くなったりもします。スモンさんは「学校には一回も行ったことがありません。一度も誕生日を祝ったこともありません。たぶん11歳。夢はありません。」と言います。



戦争につかわれる子どもたち

ジェームス 14歳
南スーダン



世界の紛争地では、今も、多くの子どもたちが兵士にさせられ、戦場でたたかわされています。戦争に使われるのは男の子ばかりではありません。女の子も、武装勢力にさらわれ、兵士の世話など、さまざまな形で道具として使われています。

アフリカの南スーダンに住んでいたジェームスさんは、14歳である日突然、武装勢力に誘拐され、「戦うか、死ぬか」と聞かれ、兵士にさせられました。そして、カラシニコフを手に、戦場へ駆り出されたのです。銃を撃つときはいつも目を閉じました。6か月間戦いました。やっと自由になったのは、自分が撃たれて取り残されたからです。2日目、病院で目が覚めました。誘拐され3年が経ち、やっとお母さんに逢うことができました。

みなさんは「結婚」と聞くとどんなイメージを持ちますか？

好きになったひとといっしょに、幸せな人生を歩むことなど、明るいイメージであることが多いのではないのでしょうか。でも、幼いうちに結婚させられる子どもたちにとって、結婚とは、人生を奪われることを意味します。

イエメンに住むシファーさんは13歳で結婚しました。

その時のことを振り返り「私はまだ6年生で、夢や希望にあふれていました。結婚したくないという母にたたかれました。20歳も年上の人と結婚しました。死のうとしたけど夫にとめられました。周りの人の児童婚への理解が十分でないから、私の様につらい思いをする女の子がたくさんいます。」と涙を浮かべて話します。

結婚させられる子どもたち



シファー 13歳
イエメン



水を運ぶ子どもたち



7:45 A.M.

アイシャ 13歳
エチオピア



ネパールの子どもたち

この女の子はアイシャさん。13歳です。アフリカのエチオピアという国で暮らしています。

水は、のどをうるおすだけではなく、すいじや洗たく、体を洗ったり、そうじをしたり、生活のあらゆる場面で、私たちに必要です。でも、もし水道がなかったら、どうなってしまうでしょう。

アイシャさんは、その水を、家族のためにはこぶという大切な仕事を担っています。朝7時からラクダに水タンクを乗せて、水場まで片道4時間、夕方3時過ぎに家に帰り、食事をする毎日です。世界には、水はこびのために学校にいけない子どもたちも多くいます。

栄養不良の子どもたち



アデュ 1歳
南スーダン



アフリカ・南スーダンに住む1歳のアデュちゃんが、村の保健センターにやってきました。1歳頃の赤ちゃんは、日本で育つとおよそ10キロ以上の重さになります。でも、当時のアデュちゃんは6キロしかありませんでした。世界では多くの子どもが、5歳になる前に命を失っています。その死因には「風邪」や「げり」などが挙げられています。

日本の赤ちゃんは、たとえ風邪をひいたり、下痢になったりしても、命を失うようなことにはなりません。それは、お医者さんにかかったり、薬がすぐに手に入ったりするからでもあります。なにより、ふだんから栄養がとれていて、病気がたたかう力、回復する力が十分にあるからです。栄養不良になってしまうと、子どもの命と成長が大きくおびやかされます。

故郷を追われた子どもたち

エマニュエル 12歳
コロンビア



幼いころから国から国へと移動してきたエマニュエルさん。約1万キロにもおよぶ旅路の途中で、ときに「難民」と呼ばれ、ときに「移民」と呼ばれてきました。

今の目標は、メキシコに行くことです。ダリエン地峡と呼ばれる危険な熱帯ジャングルを越えなければいけないけれど、今より良い生活ができると思うから。

『算数が好き。でも、しばらく勉強できていないから、それほど得意じゃないかな』

エマニュエルさんは、自分が必要なお金は自分でかせがなければと思っています。これまで、両親の収入では、食べることと住む場所を確保するのがやっとだったから。貧しさにたえ、きびしい環境で生きてきたエマニュエルさんは、ときどき、とても12歳とは思えないほど、おとなびた表情を見せます。

1万キロの旅

<エマニュエルの旅路>



佐賀県ユニセフ協会は、地域の皆様に 支えられて 30周年を迎えました



11/3(日) 「感謝の集い」 創立30周年記念事業を開催します。
13:30～ 皆様のご参加をお待ちしています。

皆様、日頃からユニセフ（国際連合児童基金）の活動にご理解とご協力をいただき、誠に有難うございます。
さて、佐賀県ユニセフ協会は、地域の皆様に支えられて、今年創立30周年の節目を迎えます。本協会は、1994年10月「わが子への愛を世界の子どもたちにも」という願いのもとに、子育て中の女性たちを中心に「財団法人日本ユニセフ協会佐賀友の会」としてスタートしました。そして、2004年4月に「財団法人日本ユニセフ協会佐賀県支部」となり、2011年4月には「公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織佐賀県ユニセフ協会」と名称を変更し、現在に至っています。

そこで、これまでの温かいご支援に感謝申し上げるとともに、世界の様々な課題に向き合いながら、次世代を生きる子どもたちが人生を切り開き、未来を担うべく成長することができるようにとの願いのもと、**～すべての子どもに希望を～** をテーマに、一人一人が地球の仲間として、“未来をどうつくっていくか”考えるきっかけにいただければと考え、記念事業を開催することにしました。

- ★当日、メインの内容は、医療支援に世界の紛争地帯や貧困地域へ数多く出向かれている精神科医の桑山紀彦氏をゲストとしてお迎えし、「佐賀県ユニセフ協会創立30周年記念公演とコンサート～国境を越えて～」を聴いていただきます。
- ★オープニングでは「和太鼓『葉隠』ジュニア」と「ティーンズミュージカルSAGA」の演技を、また、ユニセフ若者広場では「Let's Do Unicef!」のキーワードのもと若者の取り組みを紹介します。
- ★入口のホワイエでは「佐賀県ユニセフ協会の30年のあゆみ」や「子どもの権利コーナー」「SDGsの紹介」「ユニセフパネル展示」等も行う予定です。皆様、ぜひご参加ください。アバンセでお待ちしています。

<プログラム>

- ◆オープニングアトラクション
 - * 和太鼓『葉隠』ジュニア
 - * ティーンズミュージカルSAGA



- ◆30周年記念式典
 - * 表彰
 - * 30年の歩み DVD映像

- ◆桑山紀彦氏 公演&コンサート ステージ

- ◆ユニセフ若者ひろば
 - * 「Let's Do Unicef!」

アバンセホールで
お待ちしております



桑山紀彦 氏の プロフィールとメッセージ

地球のステージ

- * NPO法人「地球のステージ」代表理事
- * 精神科医、心療内科医、医学博士



佐賀県ユニセフ協会創立 30周年記念事業
unicef
～すべての子どもに希望を～

世界の紛争・被災地を音楽で語り伝える

桑山紀彦氏
公演&コンサート
～国境を越えて～

11/3 日・祝
13:30～16:30
アバンセ TEL: 0952-28-2077

参加無料
要申し込み
定員300人

【プログラム】
13:00 オープニングアトラクション
13:30 和太鼓『葉隠』ジュニア
14:00 ティーンズミュージカルSAGA
14:40 桑山紀彦氏公演とコンサート
16:10 ユニセフ若者ひろば

お問い合わせ/お申し込み
TEL/FAX 0952-28-2077
佐賀県ユニセフ協会
〒840-0054 佐賀市キタエ4丁目2-2
E-mail unicef-saga@sanso.or.jp

主催 佐賀県ユニセフ協会創立30周年記念事業実行委員会
協賛 佐賀県・佐賀市・佐賀県教育委員会・佐賀県社会福祉協議会・佐賀県医師会・佐賀県歯科医師会・佐賀県薬剤師会・佐賀県看護協会・佐賀県児童福祉協議会・佐賀県障害児支援協議会・佐賀県障害児支援協議会・佐賀県障害児支援協議会

桑山紀彦氏は、1963年生まれ、NPO法人「地球のステージ」の代表理事です。これまでタイ-カンボジア国境の難民キャンプを皮切りに、湾岸戦争後のイラク、ソマリア、旧ユーゴスラビア、カンボジア、東ティモール等で医療救援活動を行っている心療内科の医師です。

2023年6月にはウクライナ難民の心のケアで渡航。更に2024年5月には、ガザ地区支援のため、パレスチナ自治区のヨルダン川西岸地区から、現地スタッフのモハammadさんを支援し続けて帰国されました。

多くの国へ支援に赴き、そこで多くの人との出会いで感じた思いを次のように話されます。“世界と関わるとその逞しい生き様や今の日本人が忘れてしまったような大切なことを伝えていかなければ、彼らへの恩返しにならないと考え、公演とコンサートステージを4000回以上、今も続けている。”と。

現在、神奈川県海老名市で「海老名こころのクリニック」を開院中です。



○4月14日(日)南川副女性会 総会での
ユニセフ講話「使用済み切手や書き損じはがきの支援の行方」
女性会員 40人<南川副公民館>



○4月20日(土)サガン鳥栖会場での募金活動 13:00~15:00
募金活動:弘堂国際学園 学生25名、鳥栖商業高校 4人
パネル展示:「長谷部誠選手 ロヒンギャ難民キャンプ訪問」
「ウクライナ危機から1年」
<駅前不動産スタジアム>



○4月29日(月)新大工町商店街 コネクトマルシェ 10:00~15:00
長崎県でのユニセフ広報と募金活動
テーマ:「ガザの子ども達を助きたい!」
参加:マルシェ出展者様及び立正佼成会青年部の皆様



○5月3日(金)第120回 有田陶器市会場での募金活動 11:00~15:00
テーマ:ガザ人道危機緊急支援募金
ボランティア参加:佐賀大学学生、西九州大学学生
募金総額:¥123,292円



<今右衛門窯さんの店舗前にて>

○5月11日(土) 6月11日(火)、7月11日(木)、8月11日(日)
「イエローシートキャンペーン」14:00~15:00
<イオン佐賀大和店>



○5月19日(日)第28回ユニセフチャリティーバザー 14:00~15:30
テーマ:「ガザの子ども達を助きたい」バザーと募金活動
ボランティア:高校生や一般の方々 44名
提供品:趣旨に賛同いただいた方から約4000点が集まる
<佐賀玉屋南館アーケード>



○5月28日(火)長崎県諫早市社会福祉協議会様から寄贈 11:00~11:30
「使用済み切手」110kg、「外国コイン」1.8kg、
「ペットボトルの蓋」4.2kg

<諫早市社会福祉協議会>



○5月29日(水)佐志小学校児童から募金贈呈(先生が代理で事務所へ持参)
<佐賀県ユニセフ協会事務所>

○5月30日(木)長崎市立小ヶ倉中学校 3年生「ユニセフ教室」
テーマ『世界の平和と国際理解』 10:40~12:00
対象:3年生 58人 <小ヶ倉中学校 多目的スペース>



新規テーマ

【新テーマ:『もったいないを考えよう』➡牛乳パックで舟づくり 神崎市ドリームパーク15:00~16:20】

○6月19日(水)千代田中部小学校 33人

○6月26日(水)千代田西部小学校 夢組 20人

○7月 3日(水)千代田西部小学校 星組 20人

○7月10日(水)脊振小学校 9人



(牛乳パックで作った舟)



(もったいないを考えよう)



(舟をうごかそう)



(自分で舟をつくろう)



(舟のお土産に大喜び)



(出前講座ユニセフスタッフ)

○6月2日 (日) 鹿島ガタリンピック 9:30~15:00

- *募金活動 鹿島市立中学生
- *広報活動 「ガザ人道危機緊急支援」募金活動 パネル展示
- *子ども対応のゲーム (SDGsスマートボール、SDGs輪投げ)
- *ミニバザー <鹿島七浦海浜公園>



○7月4日 (火) 雲仙市小浜中学校「平和学習」出前授業
「平和を希求する力を養おう」10:45~12:00
1年生50人 <理科室>



○7月8日 (月) 武雄市立武雄小学校 募金贈呈 13:00~13:30 <校長室>
ボランティア委員会の14人がユニセフ協会からの
ポチ袋を配って全校児童に呼びかけ



○7月12日 (金) 鹿島市立浜小学校 平和集会
8:30~9:30



○7月12日 (金) 嬉野市立塩田小学校 募金贈呈 10:00~10:30
放送委員会の皆様が放送で呼びかけ



○7月16日 (火) 佐賀市立鍋島小学校ハートフル委員会の
代表児童からの募金贈呈 12:45~13:00
<校長室>



○7月19日 (金) 小城市立岩松小学校の児童の皆さんから募金贈呈
全校集会 (オンライン) 9:00~9:15

新規事業

○7月30日 (火) Lets Do Unicef!
「夏休み やってみよう切手整理ボランティア」
佐賀市内の小学生・中学生・高校生が32人参加
13:30~15:30
<佐賀市立図書館 大集会室>



○8月1日 (木) 「2024 ピースアクション in さが」10:00~12:00
募金活動 広報活動 (地雷レプリカ、「子ども兵士」等)
<アバンセホール>



○8月3日 (土) ~7日 (水) 第33回 佐賀市平和展
広報活動 (地雷レプリカ、「ガザの子ども達は今」の展示)
切手整理ボランティア <佐賀市立図書館 2階>

坂井英隆市長さんも
ご覧くださいました



**ご支援
ありがとうございます**

ボーイスカウト有田第1団、国際ソロプチミスト佐賀西部、佐賀リハビリテーション病院・智仁会、コープさが生活協同組合、平尾建築コンサルタント事務所、(株)田口電機工業、ユニセフを支援する母子草、サンシャール、唐津市立佐志小学校、佐賀市立鍋島小学校、雲仙市立小浜中学校2年生、伊万里市立波多津小学校、武雄市立武雄小学校、嬉野市立塩田小学校、小城市立岩松小学校、鹿島市立浜小学校、

佐大医学部基礎研究棟、佐賀県婦人地域連絡協議会、佐賀市立図書館、佐世保市社会福祉協議会、西九州ニチレキ株式会社、佐賀大学同窓会事務局、諫早市社会福祉協議会、佐賀玉屋物流課、(株)佐賀新聞社読者センター、ゆめプラット小城、コープさが新栄店、佐賀リハビリテーション病院夢館、鳥栖・若葉地区まちづくり協議会、鳥栖・麓地区まちづくり協議会、基里地区まちづくり協議会、伊万里市社会福祉協議会、県民協働課、正栄寺、基里小学校

(順不同:2024年4月1日~2024年7月31日)

※ いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきました。



企業や団体の協力を得て～地域の中で広がる募金活動！～

◆4月20日(土)サガン鳥栖試合会場 (サガン・ドリームス協力)での募金活動



★募金総額は **¥70,196 円**

4月20日(土) サガン鳥栖 VS 鹿島アントラーズの試合前に、株式会社サガン・ドリームスさんの協力で、駅前不動産スタジアム会場での募金活動と「長谷部誠親善大使のロヒンギャ難民キャンプ訪問」のパネル展示をさせていただきました。

毎年グッズ販売の横に、テントや机椅子を設置してもらっています。チームユニセフとしての繋がりを実感しています。『フレー フレー サガン鳥栖!』の応援にも力が入ります。

◆5月3日(金)第120回有田陶器市 会場(今右衛門窯様前)での募金活動



★募金総額は **¥123,292 円**

毎年、有田陶器市が4月29日から5月5日まで有田町で開かれます。今年は120回目、有田陶器市4キロの通り沿いには、600店舗ほどが出店し、7日間の出人は112万人程と報告され、大賑わいでした。

今年も今右衛門窯様のご協力で、玄関前や倉庫前で「ガザの子ども達」のために募金活動やパネル展示をさせていただきました。14代今右衛門様も、従業員さん方も「ご苦労さん」と仰っては、募金への協力もしてくださいます。チーム・ユニセフとしてご支援に感謝します。

◆5月19日(日)第28回ユニセフチャリティバザー (佐賀玉屋南館アーケード)



★チャリティバザー募金総額は **¥206,164 円**

佐賀県ユニセフ協会では、毎年、皆様にバザー品の提供を呼びかけ、集まった品物を必要なお客様に買っていただく「ユニセフ チャリティバザー」を開催しています。近年は、紛争や戦争で水や食べ物、薬などが不足して厳しい生活を強いられている子ども達へ売上金の総額を日本ユニセフ協会を通して現地へ届けています。

今年もバザー会場として、佐賀玉屋様のご協力で「南館アーケード」を貸していただき、また、従業員組合様からも募金をしていただきました。近隣の高校生や立正佼成会青年部やボランティアの皆様が、バザー品の値付けや販売、街頭募金活動にも協力してくださいました。

◆6月2日(日)第40回鹿島ガタリンピック 会場(鹿島七浦海浜公園)での募金活動



★募金総額は **¥73,299 円**

昭和60年から始まった、鹿島の村おこしグループ「鹿島フォーラム」による「ガタリンピック」が今年、40周年を迎えました。今年のテーマは、「ガタ、さいこう!」。

参加者は、当日1200人と発表されました。そして、鹿島の小・中学生はじめ、韓国やタイ、アメリカやスペイン等、外国の方も多く参加され、グローバルな大イベントになりました。毎年ユニセフは、ミニバザーや募金活動で参加させてもらっています。募金活動では、鹿島の中学生が協力をしてくださいます。また、体験コーナーを設置し、「SDGs輪投げ」や「スロットゲーム」ミニバザーなどで楽しんでもらっています。

◆8月2日(月)コープさが生活協同組合員の皆さんから寄せられた募金の贈呈

★募金総額は **¥2,120,599 円**

- *「ウクライナ緊急募金」 73万円
- *「ガザ人道危機緊急募金」 50万円
- *「リビア洪水 自然災害緊急募金」 44万円
- *「東ティモール指定募金」 約 46万円



【コープ生協の松本美和子会長から当協会の中尾清一郎会長へ贈呈】

コープさが生活協同組合様では、いつも会員様から集まった募金をユニセフに寄贈していただきます。今年も、紛争の続く「ウクライナ支援」や「ガザ地区人道支援」などに、合わせて¥2,120,599円の募金をしていただきました。

コープさが生協では、2週間に限定し、宅配カタログと一緒に募金専用の用紙を配り、組合員様に1口100円からの募金を募ってくださっています。

unwish の仲間たち!

NPO 佐賀学生スーパーネットの皆さん ー佐賀市ー



(佐賀学生スーパーネットの皆さん)

「NPO法人 佐賀学生スーパーネット」は、どんな団体ですか？

2003年に創立し、佐賀大学生を中心に活動しているNPO法人です！「環境・地域・人」に貢献をモットーに、「農業・環境・教育」の3分野を中心にボランティア活動をしています。

大学生や小学生、高校生に対して、様々なボランティア活動や体験学習への参加を支援する事業を行い、大学生のボランティア精神の増進やベンチャーマインドの喚起など、一人でも多くの学生が社会貢献事業に積極的に関与できる環境の整備を目指し、よりよい社会の実現に寄与することを目的として活動しています。

※2003年、学生のボランティア支援のために「佐賀大学学生スーパーネット」として設立されました。その後、「佐賀学生スーパーネット」に名称を変更、現在は30人で活動を行っています。

こんな活動を企画・実施しています

○キャリア事業部

佐賀市内の小学校・中学校・高等学校で授業の補助を行ったり、公民館で様々な世代の人が交流できるようなイベントを企画・運営したりしています。

○ふれあい事業部

農家の方と共に農業体験、自然とのふれあいを通し、「楽しい農業」を学んでいます。

○PBR(ペットボトルリサイクル)事業部

学内やイベントで回収したペットボトルキャップを、世界の子どものワクチンの費用として寄付しています。また、環境教育も行い、リサイクルを呼びかけています。



公民館での読み聞かせ会



小学生と竹切り

先輩方から続く、ユニセフとのつながり

★佐賀学生スーパーネットの皆さんは、長年、佐賀県ユニセフ協会をいろんなイベントや募金活動などで支えていただいています。佐賀大学に在籍の間に、佐賀の子ども達との活動支援だけでなく、世界の子どもの未来のためにも、大学の佐藤三郎先生や兒玉宏樹先生と共に毎年、有田陶器市会場で募金活動に参加されています。

また、『子どもサミット in 佐賀市』では、中・高生の住みよいまちづくりの会議のファシリテーターとして生徒さん達の意見をうまく進行してまとめる役割も担ってくださり、サステナブルな佐賀市のまちづくりの話合いが盛り上がりました。

通常は、ユニセフに届けられた「ペットボトルの蓋」をスーパーネットさんへお届けし、有効活用をしてもらっています。



【有田陶器市での募金活動に参加】



【“ユニセフ子どもサミット”
のファシリテーターで活躍】



【ペットボトル蓋の回収】

《部長 近藤希美さんのコメント》

★佐賀学生スーパーネットでは、過去20年以上に渡り、子どもたちの教育支援や竹切りなどを通じた自然保護、ペットボトルキャップ回収による寄付などの活動を続けてまいりました。これらの活動は先生方や地域の方の支援があってこそ日々感じております。またコロナ禍よりも多くの部員が集まり、行動制限も緩和された今、これまで行ってきた活動に加えて新たな挑戦も視野に入れ、より地域の皆様に貢献していきたいと考えております。今後とも佐賀学生スーパーネットをよろしく願います。

(原稿提供：近藤希美さん 取材：江島きよ子)